

私たちの町の文化財

私たちの町の文化財 池のほとりの不思議

■第6話 雨を降らす龍

いつの時代も人々は大雨と日照りに悩まされてきました。先月号では龍が悪さをする（≡洪水が起こる）という話でしたが、今月は反対に早ばつ時に雨を降らせてくれる龍のお話です。

「池辺寺縁起絵巻」第四話。誰とも知れないある女が寺の部屋に入っていくのを、池辺寺住職の仙海和尚が見ました。すると、たちどころに空が暗くなっていくではありませんか！仙海和尚はあわてて部屋に行くと、あるべきはずの鈴と独鈷が無くなっており、かたわらには、なにやら鱗が落ちていました。ピンときた和尚は味生池のほとりに不動明王を安置して祈ると、湖面に鈴と独鈷が浮き上がってきました。

その夜、和尚の夢に龍が現れて、「私は昔この付近に住んでいた女ですが、ねたみが強くて悪龍となってしまいました。このたび和尚の読経の功力により、ようやく己を取り戻しました。今後はこの鈴・独鈷を使って私にお願いしてもらえれば、必ず雨を降らせます。」と言ったところで和尚は目を覚ましました。

以来早ばつの時、独鈷山の東中腹にある妙相水（みょうしょうすい）という小湧水に独鈷を浸して雨乞いすると、必ず雨が降るようになりましたとさ。

◆龍に盗まれた法具・
独鈷杵と五鈷鈴

